

教育学研究科(教職大学院) 在籍者数

(平成31年4月現在)

入学年度	プログラム	学卒院生	現職院生	合計
平成31年度	学校マネジメント力開発		3	3
	授業力開発	8	3	11
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	2	1	3
	小計	10	8	18
平成30年度	学校マネジメント力開発		3	3
	授業力開発	9	3	12
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	1	1	2
	小計	10	8	18
合計		20	16	36

教育学研究科(教職大学院) 専任教員

研究者教員	実務家教員
遠藤 孝夫	高橋 和夫
立花 正男	小岩 和彦
鈴木 久米男	東 信之
山本 奨	多田 英史
田代 高章	佐藤 進
中村 好則	阿部 真一
清水 将	菅野 弘
佐々木 全	

入学者選抜方法の概要

一般学生対象

筆記試験と口頭試問及び学修・研究の構想レポート、出身大学(学部)の成績証明書を総合して判定します。(志願者数/平成29年度20名 平成30年度15名 平成31年度16名)

現職教員対象

学修・研究の構想レポート、教育活動・実践履歴書及び口頭試問を総合して判定します。なお、現職教員とは、現に教職にある者又は教育関係機関の職員であって、岩手県教育委員会から派遣される予定の者としてします。



令和元年度 岩手大学教職大学院

大学院教育学研究科
教職実践専攻(専門職学位課程)



高度な専門性と

豊かな人間性・社会性を備えた

力量ある教員を育む大学院



CAMPUS MAP

交通案内(盛岡駅から)

■バス利用
盛岡駅前バスターミナル11番のりば
岩手県交通バス 駅上山線
乗車-「松園バスターミナル行き」
下車-「岩手大学前」
岩手県交通バス 駅桜台団地線
乗車-「桜台団地行き」
下車-「岩手大学前」

■タクシー利用
盛岡駅から約2km 約10分

■徒歩
盛岡駅から約25分

岩手大学 教職大学院

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号
TEL.019-621-6840 FAX.019-621-6841
E-mail emaster@iwate-u.ac.jp
URL <http://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学 教育学部

TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edu@iwate-u.ac.jp



この冊子はグリーン購入法に基づき基本方針の判断基準を満たす用紙を使用しています。



スクールリーダーと即戦力の新人教員を養成します

岩手大学大学院教育学研究科長 遠藤 孝夫

岩手大学大学院教育学研究科(教職大学院)は平成28年4月に発足し、平成30年3月に17名の一期生、平成31年3月に18名の二期生が修了しました。修了生は、理論と実践の往還を通して修得した力量を発揮し、学校および教育行政の最前線で活躍しています。

本学教職大学院の現職院生は、岩手県教育委員会から2年間研修として派遣され、修了後は管理職等や指導主事として本県教育を牽引するスクールリーダーとなることが期待されています。学卒院生は修了後、即戦力となるスーパーキー教員として活躍することが期待されます。本学の教職大学院では、1年生と2年生、現職院生も学卒院生も全員、一つの院生室で日常生活を共にしています。この院生室での生活は、通常の授業や実習を補完する重要な学び合いやOJTの場ともなっています。学卒院生に対する独自の奨学金貸与制度も、本学教職大学院の大きな特徴となっています。

2020年度から、新しい学習指導要領が全面実施となります。本学教職大学院は、地域の教育委員会と学校との連携・協力の下に、これからの学校教育の充実・発展に大きく貢献できる力量の高い教員を育成していきます。

2020年度から、新しい学習指導要領が全面実施となります。本学教職大学院は、地域の教育委員会と学校との連携・協力の下に、これからの学校教育の充実・発展に大きく貢献できる力量の高い教員を育成していきます。



専門的・実践的力量を備えた教員養成を

岩手県教育委員会教育長 佐藤 博

2年間の学修を修了した1期生と2期生の皆さんは、それぞれの勤務地において、子どもたちのために確かな学修の成果を幅広く還元しているところです。

現職教員16名の皆さんは、校長、副校長、主幹教諭、指導主事としての任用、また連携協力校や各地区の中核となる学校への配置がなされ、存分に活躍しています。そして、学卒院生19名の皆さんも、連携協力校を始めとする小中高校などへの採用となり、日々教育実践に打ち込みながら、大きな期待に応えようと張り切っています。

本県では、教員の資質向上に向けて「育成指標」を策定し、教員の養成・採用・研修を通じた体制の構築を目指しています。教職大学院における教員養成や現職教員の研修を通して、専門的・実践的力量と、新たな価値を創造する高い専門性をもった教員の育成に取り組んでいただくことが、岩手の教育の充実につながっていくものと期待しています。

県教委として今後も引き続き、管理職や中核的なリーダー教員、授業力を磨くスーパー教員をめざすなど多様な人材を派遣して参ります。また、現職教員の派遣のみならず実務家教員の人事交流や、専門実習等学修環境のサポートなど、一層連携を図って参ります。



教職大学院とは？

本学では「教育学研究科教職実践専攻」が教職大学院です。

教職大学院は、近年の学校教育の課題が多様化、複雑化する状況の中で、高い専門性と実践力を身に付けた高度専門職業人としての教員養成に特化した専門職大学院です。これまでの教育系大学院(修士課程)との違いは、専門実習、模擬授業、事例研究など実践的な教育内容が充実し、理論と実践を融合したカリキュラムとなっているところです。

○教育学研究科(教職実践専攻)の入学定員等

入学定員 16名(うち、岩手県教育委員会から派遣される現職教員は8名)

○学位名称、標準修了年限等

標準修了年限は2年で、修了者には教職修士(専門職)の学位が授与されます。また、教育職員一種免許状の保持者には専修免許状が授与されます。

人材養成像

学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げて、教職としての高度な専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成します。

具体的には、学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダー教員を養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成します。



学校マネジメント力開発プログラム

現職院生 町畑 光明



学校ビジョンの策定、学校評価の進め方、組織マネジメントの在り方等について詳細に学ぶことができた1年でした。教職大学院には4つのプログラムがありますが、授業や実習では全てのプログラムの内容を学ぶことができ、教員としての力量を総合的に高められるカリキュラムは、教職大学院の大きな魅力だと実感しています。恵まれた環境で学ぶ機会をいただいたことに感謝しながら、2年目の学びを深めていきたいと思っています。

子ども支援力開発プログラム

現職院生 伊藤 綱俊



子どもたちの生活上・発達上の諸課題を的確に把握し、適切な支援をするというプログラムのねらいのもとに、学校カウンセリング、教育心理学、教育アセスメントなどについて具体的事例を交えながら学びを深めることができました。これまで教員として積み重ねてきた実践と大学院で学ぶ理論が融合し、自分の力になっていることを実感しています。「子ども一人一人への適切な支援」がどうあるべきかを、さらに考えていきたいと思っています。

授業力開発プログラム

現職院生 小笠原 恵



未来を生きる子どもたちに確かな学力を形成するために、講義や演習を通して理論と実践を往還させながら学びを深めています。連携協力校の先生方や子どもたちからの「学び」や様々な実習を通しての「学び」、異校種の先生方や学卒院生からの「学び」があり、岩手大学教職大学院だからこそできる「学び」がたくさんあると感じています。大学院で学んだことを学校現場に還元できるよう、日々研鑽を重ねていきたいと思っています。

学卒院生 菊池はるひ



私が教職大学院の強みだと感じることは4点あります。それは、「教授から教育各分野のより専門的な理論を学ぶことができること」「現場経験の豊富な先生方から日常的にお話をいただけること」「現職、学卒様々な立場からの意見交流、双方向な学び合いができること」そして「協力校で多様な校務経験や授業をさせていただき、子ども達と実際に関わる機会が豊富であること」です。この恵まれた環境の中でさらに学びを積み重ね、即戦力になれるように頑張りたいです。

学卒院生 熊谷 芳樹



この1年間を振り返ると、多種多様な校種の先生・学生と同じ空間で学び、生活する経験はとても貴重で、大学生活では気づけなかった発見や教育課程のつながりを実感することができました。また、教科の授業や学級経営に関わる理論の面を演習で学び、実践の面を総合実習・専門実習等で実際の教育現場に参画しながら学びました。このような理論と実践の往還の中で、さらに教師としての力量を高めるべく、日々励んでいます。

学卒院生 関川 健生



「あなたが目指したい教員像とはどのような姿ですか？」教員採用試験の面接では自信をもって答えられた質問ですが、現職院生や実習校の先生の教育に対する熱意に打たれ、思い返した1年でした。日々の講義や実習等で理論と実践と想いを積み重ね、自分なりの納得解を得ることが今後の目標です。疑問に思ったことを学卒・現職院生や教授、実習校の先生に相談できる環境へ感謝し、他の院生の皆さんと切磋琢磨していきたいです。

特別支援教育力開発プログラム

現職院生 田淵 健



自分のこれまでの実践を振り返り、そこへ新たに学んだ知識や理論を結びつけることができる教職大学院での学修は、大変有意義なものであり、今後の教員生活における大きな財産になると実感しています。また、校種、教科、世代の異なる36名が一つの院生室で机を合わせ、様々な意見を交わし交流することで、視野が広がっていくことも、自分にとっての大きな成果であると感じています。

学卒院生 大森 響生



教職大学院では、学部で培った知識や経験のもとに、講義でより専門性の高い「理論」を学び、毎週の演習で「実践」を積み重ねることが出来ます。異校種の学卒院生や、既に現場で活躍している現職院生からもグループ討議や発表を通して学ぶことができ、たくさんの「気づき」を得られています。この教職大学院での学びを通して、特別支援の視点から「主体的・対話的な学び」を実現できるように、授業づくりや支援の在り方を深めていこうと思っています。

カリキュラムについて



4つのプログラム制 学修ニーズに応じて以下のプログラムを選択します。

1 学校マネジメント力開発プログラム (現職院生のみ対象)

学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量的の修得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、指導主事及び主幹教諭等)を育成する。

2 授業力開発プログラム

教科等の指導を通して子どもたちに確かな学力形成を保障することができ、同時に地域における教科等の研修リーダーとしての役割も果たすことができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

3 子ども支援力開発プログラム

いじめや不登校など、子どもたちの生活上・発達上の諸課題を的確に把握し、適切な支援ができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。学校心理士の受験資格を得ることが可能。

4 特別支援教育力開発プログラム

特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。特別支援学校教諭専修免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の取得が可能。

専攻共通科目(必修)

- ① 特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
- ② 学習指導要領とカリキュラム開発
- ③ 学力の向上と学習意欲
- ④ ICT 活用教育の実践と課題
- ⑤ 学校カウンセリングの理論と実践
- ⑥ 通常学級における特別支援教育の実践と課題
- ⑦ 心理教育的援助サービスの理論と実践
- ⑧ 学校経営の実践と課題
- ⑨ 岩手の教育課題
- ⑩ 専門職としての教員の在り方とその力量形成

選択科目

学校マネジメント力開発プログラム

- ① 学校マネジメントの理論と実践
- ② いわたの復興教育の実践と課題 など5科目

授業力開発プログラム

- ① 教科の指導と評価の実践研究
- ② 授業の構想と教材研究 など15科目

子ども支援力開発プログラム

- ① 子ども支援のための学校臨床心理学
- ② 発達援助の理論と実践 など6科目

特別支援教育力開発プログラム

- ① 特別支援学校の実践力I
- ② 通常学級における特別支援教育 など9科目

実習科目(必修)

学部段階の基礎的・基本的な教育実習(現職院生の場合は教職経験)を踏まえ、教科等の学習指導、生徒指導、学級・学校経営に関する高度で実践的な指導力の育成を目的とします。連携協力校、教育委員会、総合教育センター等で実施します。

リフレクション科目(必修)

学校現場での実習で得られる学校実践知を教育理論知と融合させて、教育課題の解決に資する実践的力量的を育成するために、2年間を通しての必修科目として配置する科目です。

時間割例(授業力開発プログラム選択・学卒院生の場合)

専攻共通科目 選択科目

[1年次前期] 学修導入期・研究課題設定期

曜日	1	2	3	4	5
月		学力の向上と学習意欲	学校マネジメントの理論と実践	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際	
火	専門職としての教員の在り方とその力量形成	学校カウンセリングの理論と実践	小学校英語の実践と課題		
水	岩手の教育課題			心理教育的援助サービスの理論と実践	教科の指導と評価の実践研究
木					
金	教育実践リフレクションI ①学校マネジメント力開発基礎演習 ②授業力開発基礎演習 ③子ども支援力開発基礎演習			木曜日は配属校で実践実習をします。	

[1年次後期] 学修展開期・研究課題探究期

曜日	1	2	3	4	5
月	通常学級における特別支援教育の実践と課題	ICT活用教育の実践と課題		授業の構想と教材研究	いわたの復興教育の実践と課題
火	学習指導要領とカリキュラム開発	社会科教育の実践と課題			
水	学校経営の実践と課題				
木	総合実習 (①学校マネジメント力開発実習 ②授業力開発実習 ③子ども支援力開発実習)				
金	教育実践リフレクションII				

[2年次前期] 学修深化期・研究課題深化期

曜日	1	2	3	4	5
月					
火		算数・数学科教育の実践と課題			
水			道徳教育の実践と課題		
木	学校マネジメント力開発実習(4月、9月)、授業力・子ども支援力開発実習(6月)				
金	教育実践リフレクションIII				

理論と実践の往還・融合による研究課題とその解決策の検証と深化を図っていきます。

[2年次後期] 学修完結期・研究課題総括期

曜日	1	2	3	4	5
月		生活科・総合学習の実践と課題			
火					研究課題のまとめを行い、「教育実践研究報告書」を作成します。
水					
木	授業力・子ども支援力開発実習(11月)				
金	教育実践リフレクションIV				

岩手大学教職大学院 修了要件単位表	専攻共通科目 (必修)	選択科目			実習科目 (必修)	リフレクション科目 (必修)	計
	20	プログラム別必修 4	プログラム別選択 4	科目選択 6			
					10	4	48

授業や専門実習では、現職院生と学卒院生が協働・交流し学び合うことも多くあります。

履修スケジュール

	1年次											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学卒院生の場合	専攻共通科目(6科目・12単位)						専攻共通科目(4科目・8単位)					
	プログラム別選択科目(8科目開講)						プログラム別選択科目(12科目開講)					
	特別支援教育力開発プログラムの実習は、他のプログラムとは別に行います。						授業力・子ども支援力・学校マネジメント力開発実習(1日/W、計160H)※附属校					
	教育実践リフレクションI 授業力開発基礎演習(2H/W、計10H) 子ども支援力開発基礎演習(2H/W、計10H) 学校マネジメント力開発基礎演習(集中、計10H)						教育実践リフレクションII					
現職院生の場合	専攻共通科目(6科目・12単位)						専攻共通科目(4科目・8単位)					
	プログラム別選択科目(8科目開講)						プログラム別選択科目(12科目開講)					
	授業力開発実習(1日/W、計80H)※公立連携校						子ども支援力開発実習(1日/W、計60H)※附属校で実施					
	学校マネジメント力開発実習(集中、計40H)※県教委及び総合教育センター等						特別支援教育力開発実習II(授業力開発実習)(集中、2W)※附属特支					
	学校マネジメント力開発実習は全員が行います。						教育実践研究中間発表会					
	教育実践リフレクションI						教育実践リフレクションII					

	2年次											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学卒院生の場合	プログラム別選択科目(10科目開講)						プログラム別選択科目(5科目開講)					
	学校マネジメント力開発実習(集中、計40H)※公立連携校						授業力・子ども支援力開発実習(集中、計80H)※公立連携校					
	教育実践研究中間発表会						特別支援教育力開発実習I(子ども支援力開発実習)(集中、6W)※附属特支(一部公立連携校)					
	教育実践リフレクションIII						教育実践リフレクションIV					
現職院生の場合	プログラム別選択科目(10科目開講)						プログラム別選択科目(5科目開講)					
	学校マネジメント力開発実習(集中、計40H)※県教委						子ども支援力開発実習(集中、計60H)※附属校					
	教育実践研究中間発表会						特別支援教育力開発実習II(子ども支援力開発実習)(集中、5W)※附属特支(一部公立校)					
	教育実践リフレクションIII						教育実践リフレクションIV					

「理論と実践の融合」を目指す教職大学院の授業では、理論面を研究者教員が、実践面を実務家教員(小・中・高・特支校長等経験者)が担当し、多くの授業をチームティーチングで実施します。そこでは演習を重視します。

院生の学修は、学校経営学、教育方法学、教科教育学、学校臨床心理学、特別支援教育学をそれぞれ専門とする研究者教員8名と実務家教員7名、これに加えて教育学部所属の22名の研究者教員でサポートします。

「教育実践研究報告書」は、院生一人一人が学校現場に貢献しうるテーマを選定し、その内容に応じて研究者教員と実務家教員がチームでサポートします。

≫ 専門実習について



Q1 マネジメント力開発実習とは、どんなことをするの？

学校経営や教育行政にかかわる実際的な業務内容を実習します。学卒院生は、連携協力校での校務分掌を実習内容に含みます。現職院生は、教育委員会や教育センターでの事務局業務や研修の運営業務などを実習内容に含みます。



Q3 子ども支援力開発実習とは、どんなことをするの？

教科指導以外の教育活動(学級経営、進路指導、教育相談等)を実習します。児童生徒の状態を把握し、その課題解決を目指した具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。



Q2 授業力開発実習とは、どんなことをするの？

授業づくりを実習します。単元の指導計画を立案し、授業実践とその評価まで行います。その中で具体かつ有効な授業方法を開発、検証します。



Q4 特別支援教育力開発実習とは、どんなことをするの？

特別支援学校における授業づくりはもちろんのこと、教科指導以外の教育活動、通常学級への巡回相談等を実習します。その中で、具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。



≫ 教育実践研究テーマの例

学校マネジメント力開発プログラム

中学校における働き方改革～職務内容の見直しを通して～

豊かな心を育む教育に関する研究～道徳教育の取組を通して～

高等学校における組織マネジメント～ミドルリーダーが機能する学校組織～

子ども支援力開発プログラム

いじめに関する校内研修の効果の研究～いじめに対する教師効力感の変容から～

授業力開発プログラム

小学校算数科「データの活用」領域における単元開発

「数学的な見方・考え方」を育てるための授業についての研究～算数科におけるグループ学習の充実を通して～

主体的に学ぶ生徒の育成を目指す授業のあり方～パフォーマンス課題・評価を位置づけた学習の指導を通して～

特別支援教育力開発プログラム

知的障害教育における資質・能力を育む授業づくり～各教科等を合わせた指導における「単元指導計画」の工夫と活用の試み～

≫ 修了生インタビュー



久慈市立久慈小学校 副校長 鈴木義幸

久慈小学校は、岩手県で最初に開設された7校のうちの1校であり、創立146年を数える歴史と伝統のある学校です。その久慈小学校の学校経営と組織マネジメントをリードしていく立場となり、職責の重さに毎日緊張感を覚えます。教育目標「たくましく歩む 心豊かな子ども」の具現化に向け、全ては636人の元気いっぱいの久慈小っ子のために、そして52人の若さあふれる教職員のために、教職大学院で学ばせていただいたことを還元していきたいと考えています。



岩手県立盛岡第一高等学校 教諭 三上浩永

2年間の学修を終えて、学校組織や生徒理解への捉え方が以前よりだいぶ変わったと感じています。在学中は講義や実習を通じた理論知、実践知の獲得はもちろんのこと、同じ時間を過ごした一期生から三期生までの方々からも多くを学ばせていただきました。今は連携協力校に引き続き勤務しているため、四期生との交流もあり嬉しく思います。こうしたこれまでのつながりを大切にしつつ、不易流行の気持ちで目の前の仕事に取り組んでいきたいと考えています。



大槌町教育委員会 指導主事 和田裕之

現在、大槌町で教育行政に関わらせていただいております。大学院では授業力開発プログラムを専攻していましたが、他にも学校マネジメント、子ども支援、特別支援教育等様々な分野において学びを広げ、深めることができました。一つの課題において多角的に見つめる視点を持ち、複合的に捉えてマネジメントしていく手法を得ることができたのは大学院における学びでの大きな成果だと思っています。今後も大槌町や岩手県の子どものために大学院で培った力を発揮していきたいと考えています。



盛岡市立上田中学校 教諭 花館めぐみ

教職大学院での学びは、実際に生徒と学校生活を送る上での基盤になっています。学級経営も授業も試行錯誤の日々ですが、どんなことに対しても中心に据えるべきことが自分の中にあることや、考えるための知識を蓄えることが出来たのは教職大学院を修了したことの強みだと思います。毎日生徒の楽しそうな表情や、授業での真剣な眼差しを見ることで、これまでの知見を活かし、さらに自分を高めたいかなくてはならないと感じています。

修了生進路

第1期生

【現職院生】

金石市立唐丹小学校校長
大船渡市立大船渡中学校副校長
宮古市立磯鶏小学校主幹教諭
北上市立江釣子小学校主幹教諭
奥州市立江刺第一中学校教諭
岩手県立盛岡ひがし支援学校教諭
岩手県教育委員会学校教育課指導主事
宮古市教育委員会指導主事

【学卒院生】

盛岡市立城南小学校教諭
盛岡市立仙北小学校教諭
奥州市立胆沢中学校教諭
宮古市立崎山中学校教諭
岩手県立千厩高等学校教諭
岩手県立一関第二高等学校講師
一関学院高等学校教諭
盛岡誠桜高等学校非常勤講師
宮城県立多賀城市立第二中学校教諭

第2期生

【現職院生】

久慈市立久慈小学校副校長
盛岡市立城南小学校教諭
奥州市立水沢小学校教諭
盛岡市立大宮中学校教諭
岩手県立盛岡第一高等学校教諭
岩手県立盛岡ひがし支援学校教諭
住田町教育委員会指導主事
大槌町教育委員会指導主事

【学卒院生】

盛岡市立桜城小学校教諭
盛岡市立厨川小学校教諭
一戸町立一戸小学校教諭
盛岡市立下小路中学校教諭
盛岡市立上田中学校教諭
八幡平市立西根中学校教諭
滝沢市立滝沢中学校教諭
岩手県立盛岡みたち支援学校教諭
仙台市立榴岡小学校教諭
北海道立名寄高等学校教諭

≫ 学修支援Q&A

Q1 どんな施設で学修するの？

教育学研究科棟という教職大学院専用の施設があります。院生室では一人一台のパソコンが貸与され、無線LANも完備。演習室には電子黒板等のICT機器も備え、いつでも活用できます。

Q3 奨学金制度とは、どのようなこと？

学卒院生を対象とした教職大学院奨学金の貸与制度があります。岩手県の教員に採用され、5年間勤務すれば貸与された奨学金は返還免除となります。

Q2 教員採用試験での特例措置とは、どのようなこと？

岩手県の教員採用試験に合格し、その上で教職大学院に進学した学卒院生や在学中に合格した学卒院生は、大学院修了(最大2年間)まで名簿登載期間を延長することができます。なお、合格した出願区分の学校種・教科等の専修免許を取得することが条件です。

教職大学院を修了後にはこんなメリットもあります。

岩手県内の公立学校では、教職大学院での学修内容が考慮され、校内の初任者研修が180時間から90時間に軽減されます。

教職大学院や教育関係機関と連携し、教育実践研究を継続、発展させることができます。

自分の教育実践をリフレクションする習慣が付き、子どもたちの様子をもとに授業改善に努めながら、学び続けることができます。

